

## 平成28年度第1回石狩市行政改革懇話会

日 時：平成28年9月27日（火）15：00～

場 所：石狩市役所3階 庁議室

出席者：次のとおり

委 員			職 員	
役職	氏 名	出欠	所 属	氏 名
会長	角川 幸治	○	(事務局) 総務部長	及川 浩史
副会長	飯尾亜紀仁	○	(事務局) 総務部行政管理課長	森本 栄樹
委員	能村久美子	○	(事務局) 総務部職員担当主査	宇野 博徳
委員	松谷 初代	○	(事務局) 総務部職員担当主査	青木祐一郎
委員	向井 邦弘	○		
委員	柴田由美子	○		
委員	橋本フミエ	○		
委員	上木 智子	○		

傍聴人：1名

事務局：森本行政管理課長から開会宣言

<次第2> 田岡市長から次期行政改革大綱の策定にあたり、石狩市を取り巻く時代認識  
や直面する課題を踏まえた基本的な考え方についての講和

### 【田岡市長】

次期行政改革大綱の基本的な考え方についてお話しします。

《発言要旨》

- 日本全体が「縮小社会(人口減少)」に向かっており石狩市も同様の傾向にある。
  - ・「縮小社会」の進展により社会保障の維持が重要な課題となる
  - ・石狩市の人口も30年後には約2割減少すると推計されている。  
※推計値は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ
- 国の戦略では、景気を地方経済まで波及させる施策も含めて社会の仕組みを変えようとしている。
- このような社会情勢を踏まえて石狩市がいかに取り組むか
  - ・これまでの石狩市独自のプランが芽を出始めている。  
<データセンターの建設と拡張、北電 LNG 発電所の建設、超電導直流送電実証プラントの稼動>

- ・このような社会経済全体に寄与するプランを推進するとともに石狩市に住んでいる人にとっても恩恵を感じられる施策も大事
- ・一方で石狩市民の平均所得が減少傾向にあることも踏まえ、市役所が今後取り組むポイントとしては以下のとおり。

- ①「小さい市役所」⇒コストをかけない
- ②公共施設の効率的な配置
- ③一律まんべん主義からの脱却、生活に不可欠な分野(上下水道)への投資を集中
- ④土地開発公社の整理
- ⑤社会保障費の増加抑制(高齢者の健康である期間を延長する施策、若年層からの食育による健康づくり)
- ⑥市役所の効率化には情報通信技術(ICT)の導入が不可欠。(生産性の向上)
- ⑦民間で行う方が効率的な業務は民間に任せる。

こうした課題の解決と、将来の地域の成長につながる施策の両方を進めていかなければならない。

- 子ども対策が急務となっている。
  - ・石狩市でも若年層の低所得化、ご飯を食べられない子どもが問題となっている。
  - ・福祉分野と教育分野が連携して子どもの貧困と学力低下の問題を解決し、子どもの生活と教育を支えるための体制を今年度に整備した。
  - ・子どもの問題は様々な要素が関係し、解決には困難が伴うが、これからは子どもの施策を拡充していく必要がある。支援された子どもたちが自立して育った地域に帰ってくるような施策・対策が重要。
- 災害・防災対策が重点課題になる。
  - ・全国的な災害の多発により災害・防災対策が市町村長の大きな課題となっている。
  - ・防災システムにはどうしてもコストがかかる。住民一人ひとりが意識と行動を身につける必要がある。
- 市役所組織を社会の仕組みの変化に柔軟に対応できる組織にする必要がある。
  - ・例えば課題解決に必要な知識を持った職員による組織をつくり、解決したら元に戻る、また新たな課題の解決のための組織に所属するという仕組みづくりが必要。
- 職員個々のレベルアップと高度な専門性が求められる。
- 共通業務の広域化の推進
  - ・過去に水道や下水道、消防、廃棄物処理分野で効果をあげた。
  - ・情報処理分野などは今後広域化の可能性のある分野。
- 市民参加システムの充実
  - ・市民参加の進展により行政コストを下げる効果がある。
  - ・一方で経済成長期を知らない現在の若者は、社会に対する欲もないため社会参加に対し関心が低い傾向にあると言われている。

- ・市民が行政運営の仕組みの中にどう関われるか、今後市民は行政サービスの受であると同時に担い手となっていくことが期待される。
- 財政は常に緊張感を持たなくてはならない
  - ・かつての危機的な状況からは脱したものの、コストを下げるための工夫を怠ると必ず財政破綻をきたす。
- 以上が市長として石狩市が直面している課題とその解決のための取り組みの方向性を述べたが、違う視点での提案も含め市民目線で市役所の力をどう伸ばすのかご意見、お力を貸していただきたい。

<市長は公務のため退席>

【事務局:森本課長】

議事録作成方法について協議を提案

- ①一言一句を記載する方法
- ②要点をまとめて簡潔に記載する方法

<協議結果>

全会一致で②の方法とする。

《事務局:森本課長》

議題1 正副会長の選任について提案

【向井委員】

事務局案を提案願いたい。

【事務局】

前年まで会長としての経験を継続して生かしていただきたいことから角川委員にお願いしたいと考えている。

【角川委員】

承知した。

【事務局】

副会長について、差し支えなければ角川会長からご指名願いたい。

【角川会長】

飯尾委員にお願いしたい。

【飯尾委員】

承知した。

○10分間の休憩

<以降は角川会長が議事進行を行う>

◎角川会長から会長就任のあいさつ

(要旨は以下のとおり)

- ①当懇話会は若輩がトップでベテランが助言や支援することで活性化させたい。
- ②民間の活力、手法をもっと行政の改革にいかしたい。
- ③メリハリのある投資ができる仕組みとしたい。

**【角川会長】**

議題2 これまでの行政改革大綱の取り組みについて  
事務局からの説明を求めます。

**【事務局：青木主査】**

(資料1により説明 要旨は以下のとおり)

- ・行革は昭和61年から今回の大綱まで、途切れなく取り組んできている。
- ・現大綱の特徴としては以下の2点
  - ①ローリングプラン(H24-H28)方式⇒年度ごとに実施すべき事業を決める。
  - ②プール方式⇒事業の優先度、実現度に応じて第1から第3プールに事業分けし  
熟度に応じてプール順位を上げる。
- ・中間評価(3年目)を実施⇒前期の検証
- ・今大綱の成果(主なもの)
- ・平成27年度懇話会としては4回開催
- ・懇話会とは別に委員の発案により自発的な検討会が2班に分かれて議論いただいた。

**【角川会長】**

- ・ローリングプラン方式は実施の検証の確実性が高く、よい手法だと思う。

**【能村委員】**

- ・実施計画には所管が記載してあるが、現在の市役所組織図を提供いただきたい。  
委員としては市役所の業務がどの課で行われているか理解するため必要。

**【事務局】**

- ・只今用意します。(印刷物を各委員に配付)

**【角川会長】**

議題3 次期行政改革大綱策定の考え方、進め方について  
事務局からの説明を求めます。

**【事務局:宇野主査】**

(資料 2-①～④)により説明 要旨は以下のとおり)

＜全体的な考え方＞

- ・次期大綱は、社会経済情勢を踏まえ市役所のあり方を「大局的観点」で捉え、課題解決に対して進むべき方向性を示すものとしたい。

＜資料 2-①行政改革大綱(以下「大綱」という)の議論の流れ＞

- ・石狩市が直面する時代認識が議論のベースとなる。
- ・時代認識を元に課題を整理し、進むべき方向性を示す。
- ・進むべき方向性の先に市役所のあるべき姿、目指すべきあり方を明確にする。

＜資料 2-②大綱の体系＞

- ・進むべき方向性を中軸事業として大綱に明記する。
- ・中軸事業と整合性をはかり具体の事業を毎年度議論し位置付けを行う。
- ・大綱の策定年次において向こう 5 年間の実施事業を予め策定するのではなく、変化に柔軟に対応するため年度ごとに取り組みべき事業を決めるやりかたとする。

＜資料 2-③行政改革懇話会(以下「懇話会」という)のスケジュール＞

- ・今回含め 4 回の懇話会を開催予定。
- ・議論の状況により懇話会の意見を聞いて開催する。

＜資料 2-④大綱の運用サイクル＞

- ・大綱に基づく事業のあり方と組織のあり方が密接に関係することから、組織ヒアリングと連動する形で大綱を推進していく。
- ・具体的には、組織ヒアリングにより各部・各課の課題をとりまとめ、さらに懇話会からの意見を踏まえ、次年度の大綱の取り組みとして各部、各課と協議を行う。
- ・次年度の大綱の取り組みについて懇話会に報告する。
- ・次年度の取り組みについてその年度の組織ヒアリングにおいて検証し、課題の把握と実現に向けて必要な調整を行う。

説明は以上となるが、時代認識は今後の議論の重要な前提になることから懇話会からも意見をいただきたい。

**【角川会長】**

- ・時代認識は重要な事項であるので、委員各位には感想も含めて発言を求めます。

**【松谷委員】**

- ①子ども総合支援本部は行政組織機構図に入っているのか。
- ②子どもに対する生活と教育支援は中核的な対策のどこに入っているのか。

**【事務局】**

- ①子ども総合支援本部は既存の福祉及び教育の組織を横連携によるプロジェクト形式

で進めているので、組織図には明記されていない。

- ②現段階では案であるので、個々の時代認識と中核的な対策とがリンクしていないように見える部分もある。今後の議論の中でご意見をいただきながら整理していきたい。

**【松谷委員】**

- ・プロジェクト形式を市民はいかに知ることができるのか。

**【事務局】**

- ・プロジェクトの取り組み内容として市のホームページで公表される場合があるが、組織体系に載らない場合は結果的として知られる機会はない。

**【角川会長】**

- ・審議スケジュールを踏まえ、次回以降議論を深めていきたい。
- ・懇話会においても時代認識をどうみるかが大事であると考え。
- ・今後の進め方について会長から委員に提案したい。
  - ①現場力がキーワードとなっていることとも関連し、これまでの机上の議論だけではなく、現場視察をして出先で議論するという新しい取り組みを行いたい。
  - ②2班編成での懇話会独自の議論は望ましいが時間調整が課題である。
- ・懇話会の議論の進め方について柴田委員のご意見を伺いたい。

**【柴田委員】**

- ・現場視察はよいと思う。
- ・2班に分けての議論はフランクに話しができてよかった。

**【向井委員】**

- ・2班に分けての議論は良かったが今回は時間がなく、せめてKJ法を全体で行ってはどうか。

**【角川会長】**

- ・KJ法による全体会議を最低1回は実施しましょう。
- ・これら意見を事務局で取りまとめて委員間で共有できるようお願いしたい。

**【飯尾副会長】**

- ・行政関係の委員は久しぶりだが、活発な議論の場としたい。

**【事務局】**

- ・委員報酬について
- ・全体スケジュールの再度調整と再提示について
- ・マイナンバーの提示についてのお願い

**【会長】**

- ・次回以降また活発な議論をお願いします。本日はこれで散会します。

(閉会)

平成28年10月26日 議事録確定

石狩市行政改革懇話会 会長 角川 幸治